

「個」と「汎用性」を考えた教材選択

熊田 道子

科目名：近現代小説を読んでみよう

レベル：初級1・2 / 中級3・4・**5** / 上級**6**・7・8

履修者数：35名

1. クラスの目標

当該クラスは、日本の近現代小説を読むクラスである。日本の近現代小説に興味があり、日本語で読みたい気持ちはあっても、一人で読むことに困難を感じたり、何を讀んだらいいかわからない学習者は多い。そこで、当該クラスでは、様々な近現代小説を読み、近代以降の小説への知見を広めることに加え、学習者が自力で小説を読めるようになる道筋をつけることを目標としている。

2. クラスの教材選択基準

小説は個々の作家・作品の個性的な魅力が強く、独自性が注目されがちである。しかし、当該クラスの目標に鑑みれば、学習者が一人で作品を読む際の道標となるような、汎用性を考慮した作品選択が重要であろう。

クラスで読む作品は、学習者からの読みたい作家・作品のアンケートに基づいて決定する。以前は人気の高い作品から読んでいたが、その結果、期によっては、作家や作品に偏りが出ること、また、全員の希望するものを読むことができないという問題があった。

そこで、学習者の興味・関心、作品の独自性を中心に据えつつ、「1. クラスの目標」に合わせてクラスで読む作品を選ぶことにした。学習者から人気の高い作家・作品を得票順に候補作とした。クラスで読む作品を決定する基準を定めるため、当該クラスを受講した学習者のアンケートの「読みたいもの」「困難を感じること」についての記入、また、以前の履修者の困難点を分類した。そして、以下の3点を選択基準に設定した。

- ①通事の変遷：明治～戦後初期までは、現代と比べ、言語面・文化面等の異なりが大きいため、背景知識のない学習者にとって読みにくいと感じられている。そこで、クラスで読むものの半分は、明治～戦後初期の候補作の中から10年スパンで作品を選ぶこととした。
- ②ジャンル：ジャンルごとの構造を知ることは、作品理解上重要であるため、多様なジャンルの作品を選択し、読む際にはジャンルの特徴に焦点を当てた。【例：恋愛小説・社会小説（社会問題・社会的事象を描いたもの）・私小説・自伝・推理小説・童話】
- ③注意すべき言語的特徴：小説に見られる言語的特徴の中で、学習者の誤りやすいもの、見落としがちなものを探り上げた。【例：語りの人称・会話体（語り方、人物像等）・心理描写・比喩・オノマトペ・慣用表現 / 慣用句・抽象的な表現】

3. 選択作品

学習者の興味・関心、作品の独自性に加え、近現代小説を少しでも概観できるよう、「2. クラスの教材選択基準」の①～③を考慮して決定した。2015年選択作品が表1である。

表1 クラスで採り上げた作品と選択理由 (* 授業取り扱い順不同)

作家(発表年)『作品』	作品選択の主な理由	
明治から戦後初期	夏目漱石(1905)『吾輩は猫である』	明治時代の作品。当時の文化風俗を知る(以下『金閣寺』まで同様の理由を有す)。近代文学成立に寄与した文豪の作品を読み、近代以前と以降の日本語の違いを知る。
	川端康成(1926)『伊豆の踊子』	大正時代の作品。日本人初ノーベル文学賞受賞作家の作品を、受賞した理由と共に見る。物語の構造を確認する。
	宮沢賢治(1934)『銀河鉄道の夜』	昭和初期の作品。童話を読み、童話的な要素や、オノマトペの特徴や役割に気を付ける。
	太宰治(1948)『人間失格』	昭和中期の作品。一人称小説の特徴を知る。主人公の主観的な視点で描かれた作品を読む。内面の吐露を中心に進む作品の心理描写に注意する。
	三島由紀夫(1956)『金閣寺』	戦前～戦後の作品。社会的事件を基に書かれた小説を読む。抽象的な表現の意味を探る。
村上春樹(1987)『ノルウェイの森』	海外で圧倒的な人気を誇り、現在最もノーベル文学賞に近いとされる現代作家の作品。独特の比喩表現や登場人物の対比に気付く。	
吉本ばなな(1987)『キッチン』	海外でも評価の高い現代作家の作品。日本語の平易さと国を超えて共感される心理描写を楽しむ。	
乙武洋匡(1998)『五体不満足』	自伝。平易な表現で書かれた実体験。年とともに成長する主人公の変化を追う。	
村上龍(2000)『希望の国のエクソダス』	現代日本の社会問題を反映させた小説。いじめ問題や日本社会の閉塞感を感じとる。	
東野圭吾(2000)『予知夢』	推理小説。推理小説を読む際のポイントを押さえる。	
片山恭一(2001)『世界の中心で愛を叫ぶ』	青春恋愛小説。連続する会話から話し手を見つける。	
湊かなえ(2008)『告白』	複数の登場人物による語りからなる複数視点の作品。登場人物の役割による語り方の違いに気付く。	

学期終了アンケートでは、学習者の満足度評点に大きな変化はなかったが、「いろいろな作品を読めて良かった」「日本の小説がだいたいわかった」等、作品の幅広さへのコメントや、「一人でも読めそうな気がする」等、今後への自信を記したコメントが見られた。

(くまだ みちこ, 早稲田大学日本語教育研究センター)